

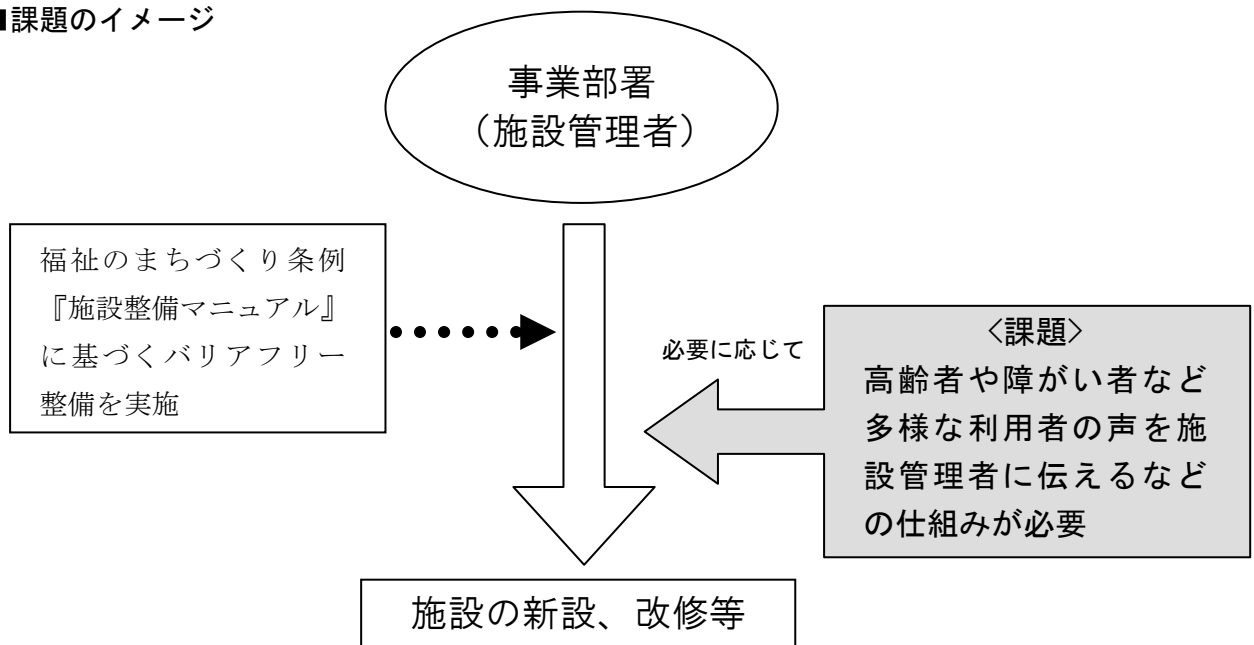
市民との共働によるバリアフリー化推進の仕組みづくり  
(検討案)

## 市民との共働によるバリアフリー化推進の仕組みづくり（検討案）

福岡市バリアフリー基本計画（平成 25 年 4 月 策定）において、「多様な利用者の声を施設設置管理者に伝える等の仕組みが必要」との課題があることから、「利用者（市民）と施設設置管理者とが共働でバリアフリー化推進を図っていく仕組み」を検討していくこととしている。

豊中市、札幌市、熊本県では、必要に応じて、事業者や自治体が、障がい者（市民）にバリアフリー整備に関する意見を求め、その意見を参考として工事を実施するなどのシステムが運用されており、これらの類似事例等を参考にしながら共働によるバリアフリー化推進の仕組みづくりを検討する。

### ■課題のイメージ



### ■他都市の参考事例

#### 事例①：豊中市

ガイドラインなどの基準にない細部の仕様を決定する必要がある場合、事業者が障がい者の確認を受け、その意見を参考に工事を実施する。（平成 16 年度より実施）

#### 事例②：札幌市

市が整備する施設（対象面積や事業目的等に条件あり）について、高齢者や障がい者に意見を求めて施設整備を進める。（平成 22 年度より実施）

#### 事例③：熊本県

高齢者や障がい者等の意見を聴く機会が増加するよう、ノウハウを有する NPO 法人が、事業主の求めに応じて当事者意見の聴取、検証、課題、意見集約などを総合的に調整することで、誰にとっても使いやすい施設の増加を図る。（平成 23 年度より実施）